

# 北海道浮魚ニュース

平成 30 (2018) 年度 4 号

2018 年 5 月 28 日

道総研 函館水産試験場

ホームページ : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

## ◎日本海スルメイカ北上期調査結果

5月20日～25日の期間、津軽海峡周辺から秋田県沖にかけての日本海で、函館水産試験場調査船金星丸（151トン、イカ釣機5台、集魚灯20灯装備）により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・スルメイカの分布は青森県久六島近海で高密度であった。
- ・全調査点での平均分布密度は2001年以降では低い値であった。
- ・魚体サイズのモードは15cmで昨年及び過去5年平均と同程度。

### 1. 水温分布 (図1)

漁獲調査点5地点の表面水温は12.2~14.6℃（昨年5地点12.6~17.2℃）、水深50mの水温は5.6~12.2℃（昨年5地点6.5~11.5℃）の範囲にありました。

スルメイカの分布の目安となる水深50mで10℃以上の水温帯は、調査海域の南側と東側

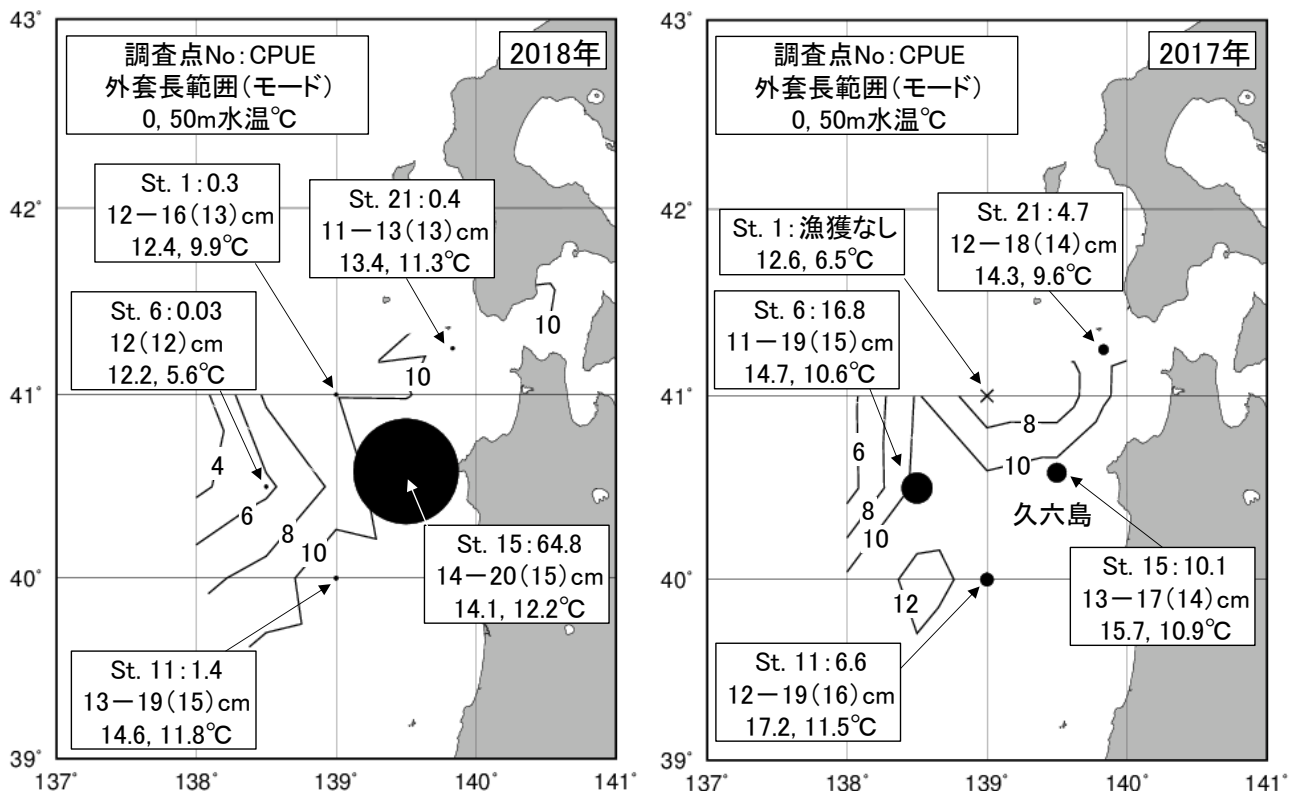


図1 スルメイカ漁獲調査結果(2017年との比較)、●は漁獲調査点で大きさはCPUEに比例(1以下は同じ大きさ)、×は漁獲なし、等温線は水深50mの水温。

に広がっていました。昨年と比較すると東経 139° 以西の沖合で水温が低く、好適水温帯は沿岸寄りに分布していました。

## 2. 分布密度 (図 1、図 2)

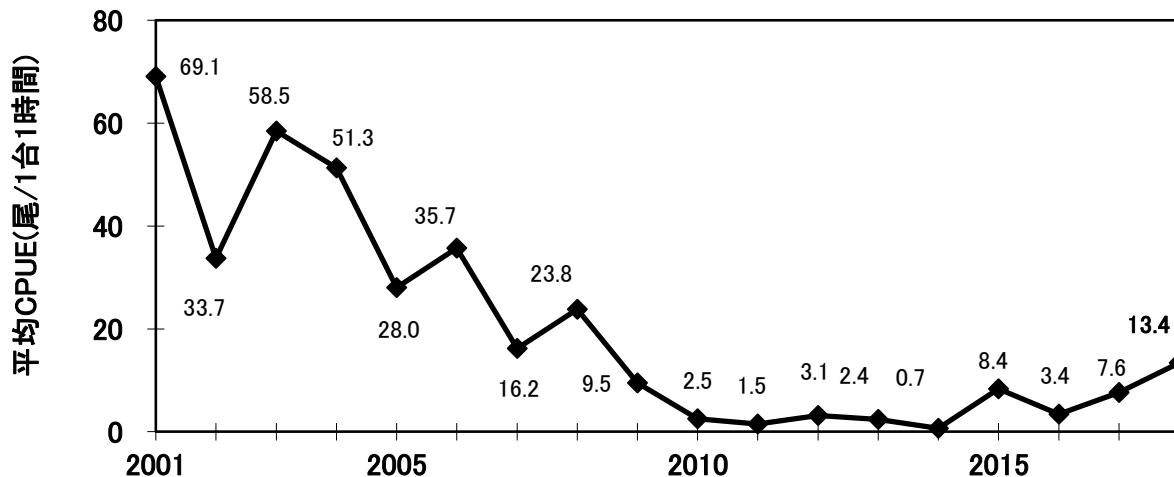


図 2 松前以南 5 地点の平均 CPUE の経年変化 (2001 年以降)

漁獲調査点 5 地点の CPUE (2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たり漁獲尾数) は 0.03~64.8 (昨年 5 地点 0~16.8) の範囲にありました。最も CPUE が高かったのは青森県久六島近海の St. 15 (64.8) でした。前年に最も CPUE が高かったのは、この沖側の St. 6 (16.8) でした。他の調査点でもスルメイカの漁獲がありましたが、CPUE は低く、0.03~1.4 の範囲でした。

漁獲調査を行った 5 地点の平均 CPUE は 13.4 で前年 (5 地点平均 7.6) 及び過去 5 年の平均 (4.5) を上回りましたが、2001 年以降では低い値でした。

## 3. スルメイカの大きさ (図 3)

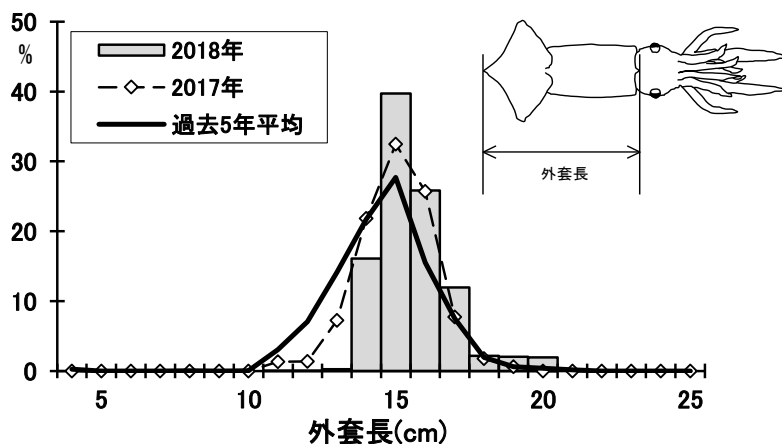


図 3 調査海域全体の外套長組成

調査海域全体のスルメイカ外套長 (胴長) の出現範囲は 11~20 cm (昨年 11~19 cm) でした。最も多く漁獲されたスルメイカの大きさ (モード) は昨年及び過去 5 年平均と同じ 15 cm でした。

#### 4. 標識放流 (図4)

調査期間中、青森県久六島近海 St. 15 で、1,549 尾の標識放流を行いました。放流したスルメイカには、番号が記入されたピンク色のスパゲティ型タグがヒレの部分に取り付けられています。

放流日と標識番号は図4のとおりです。標識のついたスルメイカを再捕された方は最寄りの水産試験場まで連絡いただきますようお願いします。

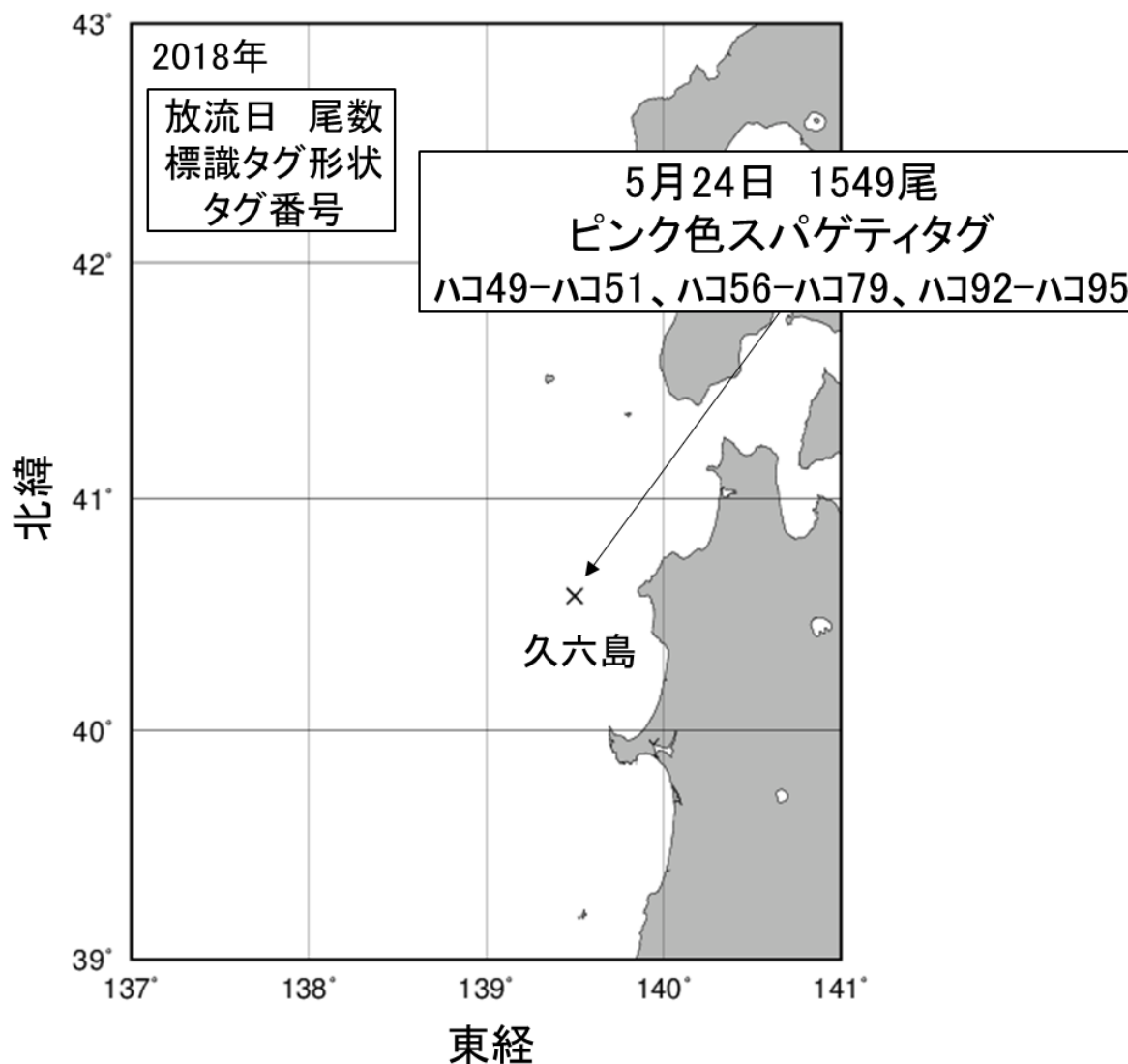


図4 標識放流の位置・放流日・尾数及び標識の形状と番号

(函館水産試験場調査研究部、TEL : 0138-83-2893、FAX : 0138-83-2849)